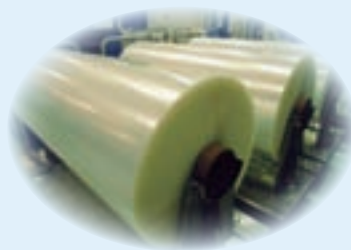


シリーズ 日本ゼオンのNo.1

Vol.1

高機能光学材料 「ゼオノアフィルム」[®]



3Dテレビ、スマートフォン、有機ELディスプレイ…。
未来を今日にする、光学フィルムのトップブランド。



氷見製造所(富山県)

世界で初めて熔融押出法による光学フィルムの生産に成功。斜め延伸技術による製造法も、世界に類を見ないゼオン独自の新技术です。液晶ディスプレイの位相差フィルムとしてのみならず、タッチパネル用導電膜用フィルムとしても採用されています。生産基地である氷見製造所(富山県)はこのほど斜め延伸フィルムの量産化を達成、光学フィルムのトップブランドとしてその地位を確立いたしました。その総生産量は1億平方メートルを超えようとしております。

日本ゼオン株式会社

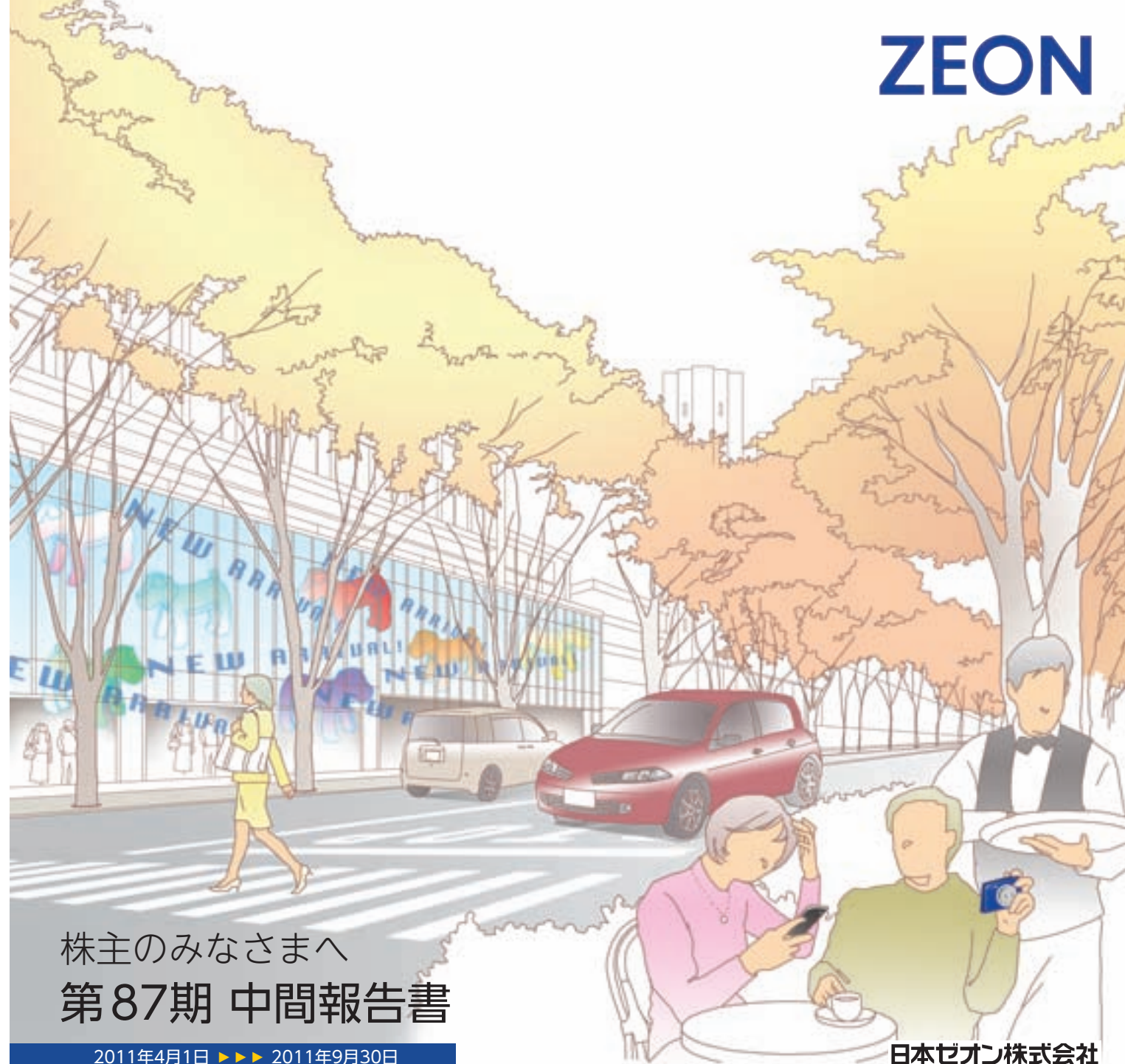
東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話 03 (3216) 1772



株主のみなさまへ
第87期 中間報告書

2011年4月1日 ▶▶▶ 2011年9月30日

日本ゼオン株式会社
証券コード：4205



2020年のありたい姿をめざし、
新中期経営計画 **SZ-20** がスタートしました。

中期経営計画の位置づけ

企業理念

大地の永遠と人類の繁栄に
貢献するゼオン

CSR基本方針

- コンプライアンスを徹底し、社会の安全・安心に応える。
- 企業活動を通じ、社会の持続的発展と地球環境に貢献する。
- 一人ひとりがCSRを自覚し、行動する。

重要な価値観 スピード 対話 社会貢献

大切にせるゼオンらしさ 仲間との相互信頼

2020年のありたい姿
—化学の力で未来を今日にするZEON—
わたしたちゼオンは、お客様の夢と快適な社会の実現に
貢献し続けます。

2011～2013年度までの実行計画に展開

中期経営計画(新3カ年計画)

事業戦略

基本方針

エラストマー素材事業と高機能材料事業のそれぞれの強みを磨き上げ、両輪でグローバルに事業を拡大する

事業セグメント別戦略

エラストマー素材事業

成長市場への
グローバルな対応による
強い事業の更なる強化

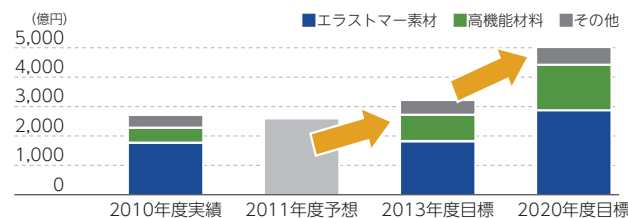
高機能材料事業

重点3事業分野[※]での
研究開発の
加速による事業拡大

コスト競争力強化

業績目標

2020年度 連結売上高 **5,000** 億円を目指す



	2010年度	2011年度	2013年度	2020年度
連結売上高 (億円)	2,704	2,600	3,200	5,000
設備投資額 (億円)	103	2011～2013年度累計 1,000		2014～2020年度累計 2,200

※ 重点3事業分野…情報用部材・エナジー用部材・メディカルデバイス

世界に誇り得る独創的技術で
お客様の夢と快適な社会の実現に
貢献します。



株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。また、本年3月の東日本大震災により被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

ここに、第87期中間期(2011年4月1日から9月30日まで)の報告書をお届けいたします。

当中間期の連結売上高は、円高傾向の加速や高機能材料事業を取り巻く厳しい市場環境の影響などから、前年同期比0.7%減の1,340億71百万円となりました。

しかし、エラストマー素材事業における販売価格の改定や、「ZΣ運動」による徹底したコスト削減等に努めた結果、連結営業利益は212億83百万円と前年同期比13.3%の増益、連結経常利益は197億92百万円と同15.4%の増益となりました。連結四半期純利益も、特別損益の改善が寄与し前年同期比34.2%増の122億35百万円となりました。

なお、中間配当金は、安定的、継続的な利益配当の方針に基づき、1株について5円とさせていただきます。

本年は新中期経営計画「SZ-20(エスゼット 20)」推進の初年度にあたります。計画で掲げました「『2020年のありたい姿』—化学の力で未来を今日にするZEON—」の実現のため、エラストマー素材事業と高機能材料事業のそれぞれの強みを磨き上げ、両輪でグローバルに事業を拡大することを基本方針として、既に多くの施策について取り組みを開始いたしました。

社内公募にて決定いたしました新中期経営計画の名称「SZ-20」には、2020年のありたい姿をめざしてゼオングループ全員が共有する「重要な価値観(スピード、対話、社会貢献)」など、さまざまな想いが込められております。わたしたちは、これらの想いをともにする仲間との相互信頼のもと諸課題に向き合い、お客様の夢と快適な社会の実現に貢献し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年12月
取締役社長 古河 直純

NEWS & TOPICS

4月

- 4月1日 韓国販売拠点「ゼオン코리아」営業開始
- 4月4日 【ゼオン化成】
中国にパウダースラッシュ材料の
生産販売会社
「瑞翁化成塑料(常熟)有限公司」を設立

5月

- 5月18日～20日
N+ プラスチック
複合展出席

6月

- 6月1日～3日 JPCA SHOW 出展
- 6月16日 シースルータイプ有機EL
ディスプレイに新規絶縁
材料ZEOCOAT®が採用
TOPICS1

7月

8月

- 8月27日、28日
IRフォーラム
2011出展

9月

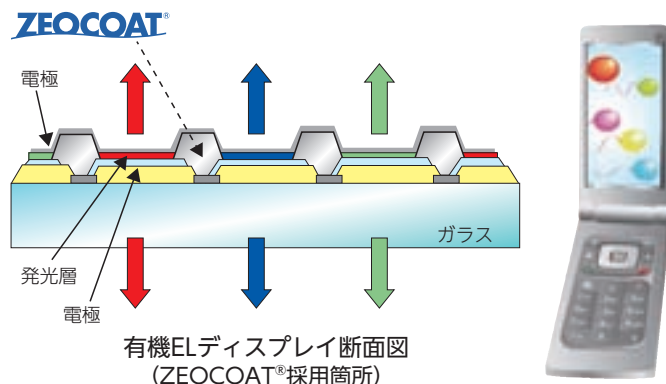
- 9月2日 シンガポールで低燃費タイヤ用合成ゴム
製造プラント起工式を開催 **TOPICS2**
- 9月5日 中国内グループ企業の管理統括・支援会社
「瑞翁(上海)管理有限公司」を設立

TOPICS 1 シースルータイプ有機ELディスプレイに 新規絶縁材料ZEOCOAT®が採用

ZEOCOAT®は、携帯電話、スマートフォン、液晶テレビ用途に代表される電子デバイス向け塗布型有機絶縁膜です。高い透明性と非常に低い吸水性を誇り、膜からガス成分を発生しにくく、ディスプレイの画質と信頼性の向上を同時に達成することができる機能性材料であり、携帯電話のシースルータイプの有機ELディスプレイへの採用は大いに注目を集めました。

今後は、引き続き有機ELディスプレイへの拡販を積極的に進めるとともに、新しい半導体を用いた薄型トランジスタ*やフレキシブルディスプレイ用の絶縁材料での採用をめざします。

*ディスプレイの画素1つ1つの明るさを決めるスイッチの役割をする半導体素子。現在はシリコンが半導体として用いられていますが、有機物や金属酸化物を用いたものも開発されています。

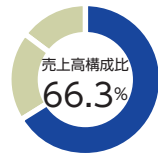


TOPICS 2 シンガポールで低燃費タイヤ用合成ゴム 製造プラント起工式を開催

低燃費タイヤ用合成ゴムS-SBRの海外初となる製造プラントの起工式が、建設予定地であるシンガポール・ジュロン島で挙行されました。起工式に引き続き市内で開催された祝賀セレモニーにはシンガポール経済開発庁のLeo Yip長官、鈴木庸一在シンガポール日本大使館特命全権大使ほか要人もお招きし、大いに盛り上がりました。

世界規模に広がる環境問題から低燃費タイヤの需要は高まるばかりですが、特殊なバッチ重合によるゼオンのS-SBRは他社製品に比較し、環境面でも大きく寄与するものとして注目されています。ジュロン島の工場敷地では、2013年7月の商業生産開始をめざして力強い建設の足音が響いています。





● エラストマー素材事業部門

売上高 894億 82百万円 (前年同期比 3.7%増)

- 合成ゴム
- 合成ラテックス
- 化成品

合成ゴムは、荷繰り販売調整の実施により輸出販売が振るいませんでしたが、国内販売は主要用途であるタイヤ向け需要が底堅く、また、原料価格に応じた価格改定を実施したこともあり、好調に推移しました。米国子会社・英国子会社も、ともに前年同期から売上高を伸ばしました。

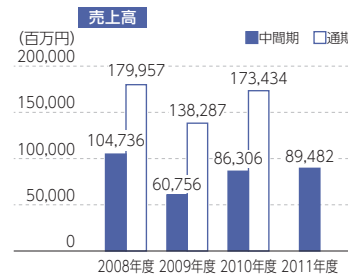
合成ラテックスは、震災による製紙用途向けの販売減少の影響が大きく、国内販売は振るいませんでした。輸出販売も荷繰り販売調整により数量は前年同期を下回りましたが、価格改定の効果により、売上高は前年同期を上回りました。

化成品は、競合メーカーの事業撤退に伴う引合いもあり、国内販売が好調に推移しました。輸出販売は国内需要増への対応のため数量が伸びませんでしたが、価格改定の効果により売上高は前年同期を上回り、タイの石油樹脂子会社もタイ国内の道路需要を追い風に、前年同期から売上高を伸ばしました。

当事業部門全体の売上高は894億82百万円(前年同期比3.7%増)、営業利益は183億円(同31.6%増)となりました。

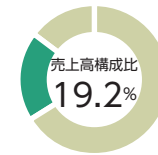
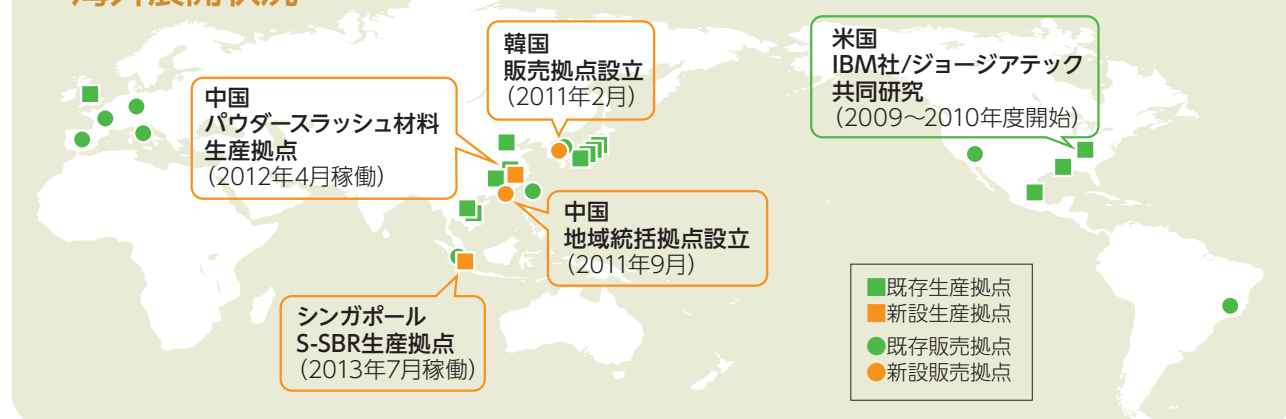


【製品用途例】



海外展開状況

成長市場にてスピーディに、確実に、研究開発・生産・販売する体制を整える。



● 高性能材料事業部門

売上高 259億 46百万円 (前年同期比 10.2%減)

- 高性能樹脂・部材
- 情報材料
- 化学品
- 医療器材

高性能樹脂は、光学レンズ用途および医療用途向けは堅調に推移しましたが、汎用樹脂ユーザーの在庫調整の影響が大きく、販売数量・売上高とも前年同期を下回りました。**高性能部材**も、モバイル向け光学フィルム等が堅調に推移した一方、世界的な市況の悪化を受け、テレビ向け光学フィルムの需要が落ち込みました。

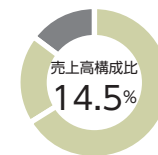
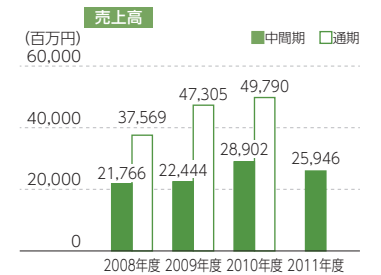
情報材料は、電池材料の販売が好調に推移したものの、トナーおよびエッチング用ガスが振るわず、販売数量・売上高とも前年同期を下回りました。

化学品は、特殊化学品の販売が復興需要や拡販により好調に推移した一方、合成香料は欧米での景気減速を懸念する動きが強まったことから全体的に出荷が落ち込み、販売数量・売上高とも前年同期を下回りました。

当事業部門全体の売上高は259億46百万円(前年同期比10.2%減)、営業利益は23億56百万円(同44.4%減)となりました。



【製品用途例】

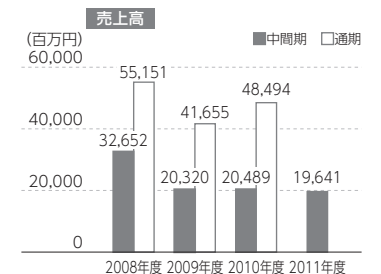


● その他の事業部門

売上高 196億 41百万円 (前年同期比 4.1%減)

- RIM配合液・成形品
- 建設・住宅部材
- バタジエン抽出技術等の販売 ほか

子会社の商事部門の売上高が前年同期を下回ったこともあり、当事業部門全体の売上高は196億41百万円(前年同期比4.1%減)となりましたが、営業利益は6億24百万円(同6.7%増)となりました。



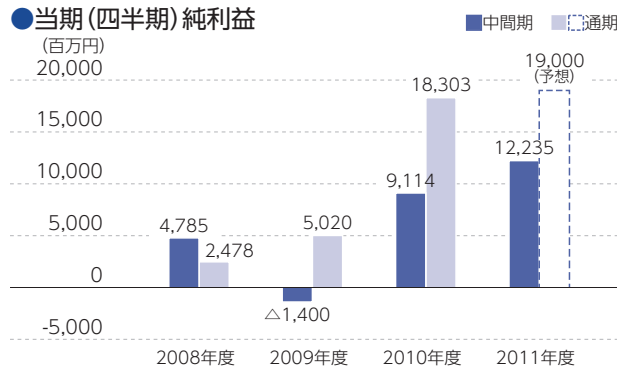
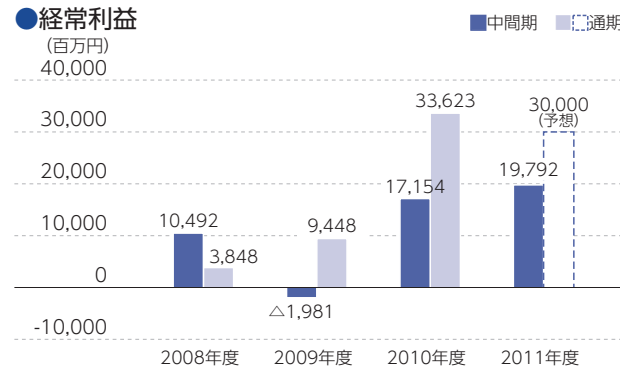
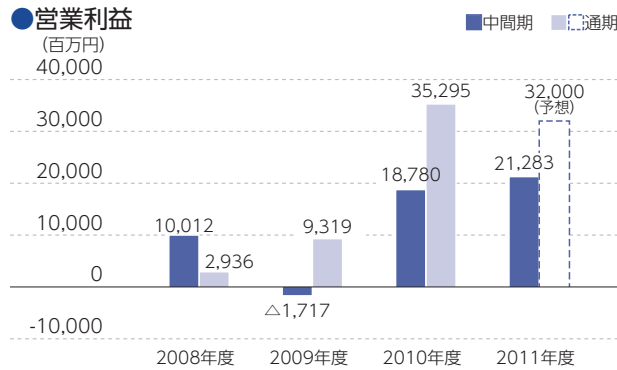
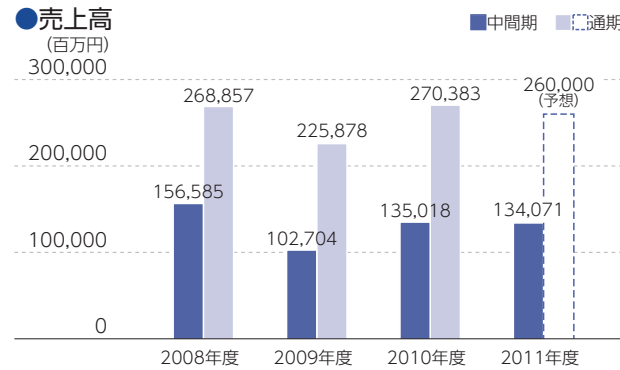
連結財務ハイライト

当中間期の業績のポイント

売上高 1,340億71百万円 ▶ 円高の進行や高機能材料を取り巻く厳しい市場環境の影響を受け、売上高減少
 (前年同期比0.7%減)

経常利益 197億92百万円 ▶ 販売価格の改定や「ZΣ運動」による徹底したコスト削減等に努め、経常利益増加
 (前年同期比15.4%増)

四半期純利益 122億35百万円 ▶ 特別損益の改善が寄与し、四半期純利益増加
 (前年同期比34.2%増)



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2011年9月30日	前連結会計年度末 2011年3月31日
資産の部		
流動資産	164,405	156,741
固定資産	135,018	133,855
有形固定資産	97,936	95,942
無形固定資産	4,174	3,996
投資その他の資産	32,909	33,917
資産合計	299,423	290,596

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2011年9月30日	前連結会計年度末 2011年3月31日
負債の部		
流動負債	110,885	105,137
固定負債	59,823	66,691
負債合計	170,708	171,828
純資産の部		
株主資本	132,608	121,715
その他の包括利益累計額	△7,508	△6,840
新株予約権	209	234
少数株主持分	3,407	3,659
純資産合計	128,715	118,767
負債純資産合計	299,423	290,596

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日～2011年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2010年4月1日～2010年9月30日
売上高	134,071	135,018
営業利益	21,283	18,780
経常利益	19,792	17,154
税金等調整前四半期純利益	19,656	14,464
四半期純利益	12,235	9,114

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日～2011年9月30日				
現金及び現金同等物の期首残高	15,072			
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,831			
投資活動によるキャッシュ・フロー		△11,671		
財務活動によるキャッシュ・フロー			△3,187	
現金及び現金同等物に係る換算差額				△77
現金及び現金同等物の四半期末残高				9,967

資産・負債・純資産について

- **資産の部**
現金及び預金、投資有価証券等が減少したものの、未収入金、たな卸資産、有形固定資産等の増加により、総資産合計は前年度末に比べて増加しました。
- **負債の部**
支払手形及び買掛金等が増加したものの、未払法人税等、有利子負債等の減少により、負債合計は前年度末に比べて減少しました。
- **純資産の部**
利益剰余金の増加等により、純資産合計は前年度末に比べて増加しました。

キャッシュ・フローについて

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**
税金等調整前四半期純利益による資金の増加等により、営業活動で得られた資金は98億31百万円となりました。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
主として有形固定資産の取得に資金を振り向けた結果、投資活動で使用した資金は116億71百万円となりました。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**
長期借入金の返済など有利子負債の削減等に努めた結果、財務活動で使用した資金は31億87百万円となりました。

会社の概況 (2011年9月30日現在)

商号 日本ゼオン株式会社 (ZEON CORPORATION)
 設立 1950年4月12日
 資本金 242億1千1百万円
 本社 〒100-8246 東京都千代田区丸の内1-6-2
 新丸の内センタービル
 電話03(3216)1772

従業員数 2,859名(連結)

役員
 取締役社長 古河 直純
 取締役 南 忠幸(☆)
 取締役 荒川 公平(☆)
 取締役 伏見 好正(☆)
 取締役 田中 公章(☆)
 取締役 大島 正義(☆)
 取締役 武上 博(*)
 取締役 長谷川 純(*)
 取締役 平川 宏之(*)
 取締役 伊藤 敬(*)
 取締役 伊藤 晴夫
 常勤監査役 岡田 誠一
 常勤監査役 岩田 峰郎
 監査役 藤田 譲
 監査役 南雲 忠信
 監査役 森 信博
 常務執行役員 井上 幹雄
 執行役員 朝比奈 宏
 執行役員 桜井 賢典
 執行役員 梅澤 佳男
 執行役員 今井 廣史
 執行役員 三平 能之
 執行役員 西嶋 徹
 執行役員 山本 俊一
 執行役員 黒田 雄三
 執行役員 藤澤 浩

(☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。
 (*)の取締役は執行役員を兼務しております。

国内拠点 (2011年9月30日現在)



川崎工場・総合開発センター



高岡工場



徳山工場

株式の状況 (2011年9月30日現在)

株式の状況

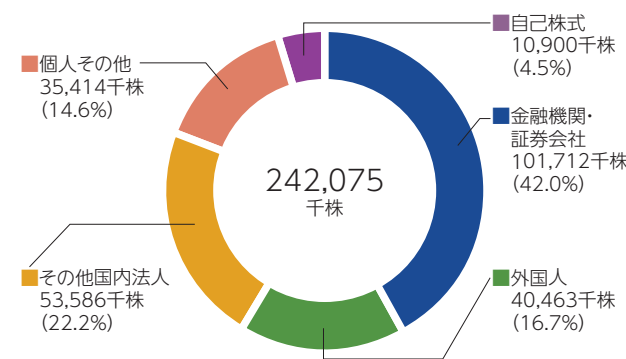
発行可能株式総数 800,000,000株
 発行済株式の総数 242,075,556株
 株主数 12,878名(前期末比714名減)

大株主

株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	議決権比率(%)
横浜ゴム株式会社	16,832	7.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,919	5.16
朝日生命保険相互会社	10,679	4.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,262	4.01
株式会社みずほコーポレート銀行	8,770	3.79
古河電気工業株式会社	8,594	3.72
全国共済農業協同組合連合会	7,450	3.22
旭化成ケミカルズ株式会社	6,438	2.78
株式会社みずほ銀行	4,989	2.16
株式会社損害保険ジャパン	4,689	2.03

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は自己株式10,900千株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 配当金受領 3月31日および
 株主確定日 中間配当を行うときは9月30日
 基準日 毎年3月31日(その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)
 公告方法 電子公告 <http://www.zeon.co.jp/>
 (ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)
 株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
 東京都港区芝三丁目33番1号
 (〒105-8574)
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 (〒168-0063)
 郵便物送付先(電話照会先) 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて
 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について
 配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。